

施策の展開

基本目標 1 元気な地域・人づくり

1. 「顔の見える関係」づくり

施策の方向性

地域住民が身近な地域に関心を持ち、近所に住む人と互いに知り合うことができるよう、そのきっかけづくりに努めます。

現状・課題

- 単独世帯や核家族世帯が増加傾向にあり、また、通勤（通学）している人の半数近くが市外に出ているなど、近年では地域におけるつながりの希薄化がうかがえます。地域行事等を通じた交流やつながりづくりが求められます。
- 中学2年生アンケートでは、困った時に近所の人に助けを求めることができるかという質問において、「できない」の回答が4割弱となっています。
- 20歳以上の市民アンケートでは、地域福祉推進のために住民が取り組むべきことは何だと思うかという質問において、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」との回答がもっとも多く、4割を超えています。

市民の声



顔の見える地域づくりが大切。最近では挨拶もしない、返さない人が多い。まず人と人との交流がなければ、施策だけ行っても意味がないものになる。
(30代・女性)

職場が高知市内で、住まいの周辺は家が少なく人とのふれあいが無い。地域の中で何かが行われても、知ることもない。
(60代・男性)

地域で名前の知らない人たちが増えている。子どもたちが小さい頃は地域や学校との繋がりがあったが、今は関わりがない。地域に独居老人がどの程度いるのか知らず、災害時にどう活動できるか心配。
(60代・女性)

住民一人ひとりの役割

- 隣近所の人とのつながりを持つ
隣近所の人へのあいさつ等の身近なところから、地域の人と交流を心がけましょう。
- 地域に関心を持ち、行事等に参加する
地域の行事等に関心を持ち、声をかけ合って参加するよう心がけましょう。

地域の役割

- 地域行事を継続し、情報を周知する
地域のイベントや行事の継続、拡充を図るとともに、その情報を住民が得られるよう周知に努めましょう。

民生児童委員の役割

- 地域の情報を把握し、地域で共有する
継続して住民や地域の情報を把握するとともに、地域の要望や課題を共有し、その解決へと働きかけましょう。

福祉関係団体等の役割

- 地域との交流を大切にする
地域のイベントや行事への積極的な参加を心がけることで、事業を利用している人も一緒に参加しやすい環境づくりに努めましょう。

社会福祉協議会の役割

- 住民が地域に目を向ける機会を設ける
実施する様々な地域福祉活動において、より多くの住民が関心を持てるよう、企画や内容を工夫するとともに、活動の周知に努めます。

市の役割

- 多様な機関との連携・協働による参加への足掛かりをつくる
学校と地域との連携による活動や、公民館等を地域拠点とした活動を活性化することで、地域において互いに知り合い、つながりが生まれるよう努めます。

取り組み

(1) 地域参加のきっかけづくり

■あいさつ・声かけ運動の実施

あいさつからはじまる地域福祉を推進し、社会福祉協議会と連携して「あいさつの日」設定を目指します。また、隣近所や支援を必要とする人への日常的な声かけを地域に広めることで、地域における相互の見守り関係の構築を図るとともに、地域行事等に誘い合って参加できる土壌づくりを推進します。

■ワークショップ・座談会の開催

地域における交流の推進と課題把握のため、社会福祉協議会と連携して各地区での座談会を定期的実施し、地域の人と行政が協働で地域福祉推進に取り組みます。また、座談会へは障害の有無や年齢を問わず、誰もが参加できるよう、関係機関と連携して積極的に呼びかけを行います。

(2) 地域の交流の場づくり

■あったかふれあいセンターの充実

あったかふれあいセンターが地域の交流の拠点となるよう、さらなるサービスの充実に努めます。また、身近な場所で、小さな困りごとへの対応や、専門機関へのつながりが円滑にできるよう、各地区における住民主体のサロンの設置を目指します。

■公民館等の積極的な活用

各地区にある公民館を、幅広い年代層が利用できる交流の場として、地域行事はもちろん、サークル活動や稽古事、健康づくりや防災教室等、多方面において積極的に活用します。

また、地域集会所等の地域施設についても活用できるよう、各地区との連携に努めます。

数値目標

指標項目	考え方	現状値	目標値
近所づきあいしている市民の割合	市民アンケートにおいて、近所づきあいの程度が困りごとの相談・助け合いや、そこに至らぬまでも世間話をする程度である市民の割合	52.3% (平成28年)	70.0%
地区座談会等の開催	地区（各地区・地区社会福祉協議会）単位での座談会等の開催数	地区ごとに異なる	各地区年1回以上開催
住民主体のサロンの設置	小地域での住民主体のサロンの新規設置数（あったかふれあいセンターサテライト）	3か所	5か所

2. 地域福祉を担う人づくり

施策の方向性

地域において福祉活動を担ってくれる人を発掘・育成するとともに、地域福祉の重要性の周知・啓発のため、福祉教育の充実を図ります。

現状・課題

- 現在、地域で活動している人やリーダーの高齢化等に伴い、活動の担い手不足が課題となっています。活動に参加する人の発掘や育成が求められます。
- 関係団体へのヒアリングでは、団体の課題として「リーダー（後継者）が育たない」をあげた団体が複数ありました。団体と連携し、その活動を支援することで、リーダー育成に協力することが求められます。
- リーダーのなり手がいない、後継者が育たない要因の一つとして、負担が大きいことがあげられます。役割分担等を行い、協力して活動する体制づくりが求められます。
- 20 歳以上の市民アンケートでは、地域活動のリーダー（さきやり）の発掘や育成が活発であると思うかという質問において、「そう思わない」との回答が5割を超えています。
- 中学2年生アンケートでは、今後ボランティアをやってみたいと思うかという質問において、「やってみたい」と「わからない」の回答がそれぞれ4割を超えています。

市民の声



地域の人たちと交流ができたらと思う。特にボランティアに積極的に参加したい。仲間外れのない地域にしてほしい。
(40代・男性)

地域ボランティアでは一部の人に負担がかかり、働き盛りの自分が関わっていないのが心苦しい。高齢になっても辞められない現状について地域で考えるべき問題。
(40代・女性)

若い人が減り、町の役割分担が年寄りにかかるため当番などは減らすべき。一人暮らしの者は毎年役ばかり。もう疲れた。
(60代・男性)

住民一人ひとりの役割

○情報を積極的に受け取る

広報紙等から、地域や活動の情報を積極的に得るよう心がけましょう。

○自分にできることから始めてみる

地域に関心を持って、隣近所との交流や地域行事への参加等、自分にできることから始めてみるよう心がけましょう。

地域の役割

○活動団体のPRや円滑な受け入れの工夫をする

住民に情報が届くよう、活動の積極かつ効果的なPRを心がけましょう。また、新しい人が参加しやすいよう、場や体制づくりを工夫して新規加入を促進するとともに、運営しやすい組織形態の検討に努めましょう。

民生児童委員の役割

○地域の情報を把握し、地域で共有する

継続して住民や地域の情報を把握するとともに、地域の要望や課題を共有し、その解決へと働きかけましょう。

福祉関係団体等の役割

○地域貢献活動に取り組む

職員や従業員等が率先して、地域貢献活動に取り組み、事業所から地域へとつながる連携の輪がさらに広がっていくよう努めましょう。

社会福祉協議会の役割

○福祉教育の充実と機会の提供を行う

小・中学生を含む市民が、福祉について学ぶ機会が持てるよう、出前授業や講習会を行うとともに、質の高い教育ができるよう、専門家等との連携を図ります。

○リーダー等の育成を行う

地域福祉推進のためのリーダー等を育成するため、研修等を開催します。

市の役割

○教育機関との連携による福祉教育の充実を図る

教育機関との連携を図り、学校における福祉教育の充実に努めます。また、質の高い福祉教育が実施されるよう、社会福祉協議会と連携し、その活動を支援します。

○リーダー等の育成を支援する

地域福祉推進のための活動をしている人や団体に対し、地域福祉に関する情報提供や活動支援を行います。

取り組み

(1) 福祉教育の充実

■教育機関との連携による福祉教育の充実

教育機関と連携し、主に小・中・高等学校における福祉教育の充実を図り、地域や福祉に関心を持った児童生徒の育成に努めます。

■生涯教育等における福祉教育の充実

市民が福祉について学べる機会や場を提供し、その周知を行うことで、市全体の福祉への意識の向上を図り、地域福祉推進へとつなげます。

(2) 「さきやり」の発掘・育成

■「さきやり」の発掘・育成

地域における活動のリーダーを担う「さきやり」発掘のため、30 歳代・40 歳代が参加しやすい地域行事の実施方法を検討するとともに、その育成を支援します。また、業務分担や活動人員の確保等、「さきやり」の負担を軽減できるような体制づくりを支援します。

(3) ボランティアの育成

■介護支援ボランティアの育成

地域の元気な高齢者等にボランティア活動に参加いただけるよう、「認知症サポーター養成講座」や「ボランティア養成講座」を引き続き開催します。

■ボランティアポイント制度の周知

ボランティアポイント制度をさらに充実させるとともに、その周知を行い、市民のボランティアへの参加意欲向上を図ります。

数値目標

指標項目	考え方	現状値	目標値
小・中・高等学校における福祉教育連携事業	出前授業や体験授業、施設訪問等、市内小・中・高等学校における福祉教育連携事業の実施回数	各校年1回以上	各校年1回以上維持
介護支援ボランティアの育成	「認知症サポーター養成講座」の受講者数	128 人/年	150 人/年

3. 健康づくり・生きがいづくり

施策の方向性

住み慣れた地域で、元気でいきいきと生活できるよう、地域ぐるみの健康づくりを進めるとともに、社会的孤立を防止し、地域交流の輪を広げる生きがいづくりを推進します。

現状・課題

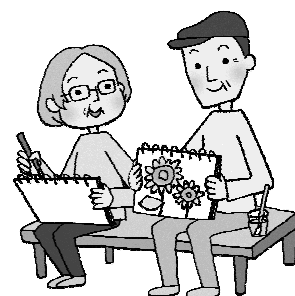
- いきいきサークル等の介護予防事業を実施するとともに、健康なんこくきらりフェアの開催等、健康意識の啓発を行っています。
- 健康づくり推進のため、運動教室、栄養教室等を開催していますが、参加者の固定化がみられるなどの課題があります。
- 公民館におけるサークル活動について、市ホームページでの紹介やサークル一覧表の配布等、活動の促進を図っています。公民館の活用については地域差があり、多く活用されているところでは空きがなく、活動する場所の不足が課題となっています。
- 20 歳以上の市民アンケートでは、日頃困っていることや不安なことはあるかという質問において、「家族の健康や介護のこと」との回答がもっとも多く、3割を超えています。

市民の声



介護審査を受け、以前と変わらない状態であるのに支援となり、デイに行く日が減った。引きこもり鬱や認知症が心配になる。
(40代・女性)

図書館等の文化施設が整備されていないことも、地域のつながりの希薄化に影響しているのではないかと。地域住民が集いたくなるような場の整備が必要だと思う。
(関係団体ヒアリング)



住民一人ひとりの役割

- 身体を動かすことを意識する
簡単な体操やウォーキング等、自分の体力に応じた運動を習慣づけるように心がけましょう。
- 色々なことに興味を持つ
サークル活動やボランティア、運動、文化活動等、色々な分野の情報を得て、興味の幅を広げましょう。興味を引かれた活動に、可能な範囲で参加してみましょう。

地域の役割

- 活動団体の支援をする
住民がより多くの選択肢を得られるように、様々な団体等の活動を支援し、その活性化に努めましょう。

民生児童委員の役割

- 住民への情報提供と参加の声かけを行う
地域のイベントや講座開催等の情報を住民に周知するとともに、参加しやすいように隣近所や親しい人と一緒に声かけをするようにしましょう。

福祉関係団体等の役割

- 住民が参加したくなる活動を実施する
住民が興味を持ち、参加したくなるような活動の実施に努めましょう。
- 住民の活動参加を支援する
住民が活動への参加を希望した際には、他の関係主体と連携し、支援しましょう。

社会福祉協議会の役割

- 住民が参加したくなる活動を実施する
住民が興味を持ち、参加したくなるような活動を実施します。
- 住民の活動参加を支援する
住民が活動への参加を希望した際には、他の関係主体と連携し、支援します。

市の役割

- 福祉関係団体等の活動を支援する
福祉関係団体等の、住民の健康づくり、生きがいづくりのための活動を支援します。
- 社会福祉協議会の活動を支援する
社会福祉協議会の、住民の健康づくり、生きがいづくりのための活動を支援します。

取り組み

(1) 健康づくりの充実

■地域における健康づくり活動の支援

健康まつり(きらりフェア、ミニきらり)や運動教室、栄養教室等を開催し、地域の住民が集まって健康づくりを行う取り組みを推進します。

■受診率向上に向けた取り組み

市で実施している特定健診・がん検診等の各種健康診断について、受診率向上のためハガキや電話等での受診勧奨を促進します。

■食育の推進

第3次食育推進計画の取り組みと連携しながら、食育に関心を持ち、掲げられた目標に取り組む市民が一人でも増えるように、市民や地域の活動を支援していきます。

(2) 介護予防の充実

■「いきいきサークル」の活性化

高齢者の筋力向上体操として「わかガエる体操」を地域で普及啓発してくれるボランティア養成講座を開催するなど、「いきいきサークル」の活動を支援し、拡大を図ります。

■介護予防事業の推進

高齢者ができるだけ介護や支援を必要とすることなく生活できるように、介護予防事業の充実を図ります。

(3) 生涯学習活動の充実

■公民館におけるサークル活動等の充実

公民館を地域の交流拠点とし、地域住民が楽しみながら交流を図れるよう、サークル活動の充実を図るとともに、健康づくりや防災に関する教室等、幅広い活用を支援します。

■各種研修・講座の充実

魅力的な研修や講座等を開催することで、市民に生涯学習の場や機会を提供します。

数値目標

指標項目	考え方	現状値	目標値
市民主体の健康管理	特定健診の受診率	33.5% (平成27年度)	60.0%
いきいきサークルの普及	「わかガエる体操」の参加者数 (延べ人数)	2,379人 (平成28年12月末現在)	4,500人